

2022年11月27日（降臨節第1主日、A年）

牧師メッセージ

「すでに」と「いまだ」の間

（マタイによる福音書24:37-44）

司祭ヨセフ太田信三

クリスチャンは、「すでに」と「いまだ」の間を生きています。「すでに」イエス・キリストによる救いに与っていますが、「いまだ」イエス・キリストの再臨を待ち望んでいるからです。降臨節は、「すでに」救いを約束してくださった御子の誕生を祝うクリスマスと、「いまだ」訪れていない再臨の時を待ち望み、備える期節です。

必ず訪れる再臨の時は、救いの時であるとわたしたちは「すでに」知っています。神は主イエスの死と復活によって、例外なくすべての命を愛し、救うことを「すでに」明らかにしてくださったからです。再臨の時とは、その救いが完全に実現する時、主イエスと顔と顔とをまみえる喜びの時です。必ずそのときが到来するのだから、それがいつ来ようとも、心配せず「今」を大事に生きることができるのがクリスチャンです。そして、その「今」とは、主イエスによって示された希望に照らされた「今」です。

今日の使徒書では、パウロが「闇の行いを脱ぎ捨てて、光の武具を身に着けましょう。」と呼びかけています。「光の武具」とはイエス・キリストのことに他なりません。そして、「光の武具を身に着け」て生きるとは、「すでに」示された「キリストの光」を身にまとい、「今」を生きるということです。闇のなかでは、人と人は互いに争い、ねたみ、不信と恐れの中で生きることになります。しかし、キリストの光に照らされるなら、不信と恐れは、愛すること、信頼することへと変えられます。光であるキリストのみ言葉に聴き、その光に世界が照らされることでこそ、「剣を打ち直して鋤とし 槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず もはや戦うことを学ばない」というイザヤの預言がこの世界に実現します。そのために、わたしたちクリスチャンはキリストを身にまとう光の子として、愛するため、信頼するためにこの世に派遣されています。降臨節は、あらためてこの光をわたしたちの真ん中に見つめ、感じ、歩みをあらたにする時です。

「すでに」示されたキリストの光によってこそ、「いまだ」訪れない世界の実現を、わたしたちは信じ、その実現のために今を生きることができます。この光をわたしたちに示してくださったキリストの誕生を祝うことができる者は、キリストの再臨を待ち望みながら今を生きることができます。「主の光の中を歩もう」というイザヤの呼びかけを聴き、主の光に照らされて、この降臨節を歩みましょう。